

平成30年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年11月14日

上場会社名 株式会社アエリア 上場取引所 東
 コード番号 3758 URL https://www.aeria.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)小林 祐介
 問合せ先責任者 (役職名)管理本部長 (氏名)上野 哲郎 (TEL)03(3587)9574
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無(証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年12月期第3四半期の連結業績(平成30年1月1日~平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年12月期第3四半期	24,002	147.4	1,785	△25.2	1,624	△33.4	△121	-
29年12月期第3四半期	9,702	123.5	2,388	-	2,439	-	1,502	-

(注) 包括利益 30年12月期第3四半期 △162 百万円 (-%) 29年12月期第3四半期 1,520 百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年12月期第3四半期	△6.22	-
29年12月期第3四半期	92.50	91.04

(参考) EBITDA(営業利益+減価償却費+のれん償却額)

30年12月期第3四半期 2,750百万円(△2.0%) 29年12月期第3四半期 2,806百万円(610.1%)

のれん償却前四半期純利益(親会社株主に帰属する四半期純利益+のれん償却額)

30年12月期第3四半期 417百万円(△74.4%) 29年12月期第3四半期 1,626百万円(709.5%)

(注) 平成29年7月1日付けで普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年12月期第3四半期	30,497	14,035	45.0
29年12月期	27,770	13,108	46.2

(参考) 自己資本 30年12月期第3四半期 13,730百万円 29年12月期 12,816 百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00
30年12月期	—	0.00	—	—	—
30年12月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年12月期の連結業績予想(平成30年1月1日~平成30年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	32,000	101.6	2,400	△10.8	2,200	△20.3	300	△85.6	17.86	

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成30年11月14日)公表いたしました「平成30年12月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社(社名)㈱サイバード、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年12月期3Q	23,649,428株	29年12月期	19,224,213株
② 期末自己株式数	538,974株	29年12月期	405,274株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	19,580,330株	29年12月期3Q	16,242,392株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位に組み替え表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成30年1月1日～平成30年9月30日）におけるわが国経済は、政府による経済政策等により、緩やかな景気回復基調が続いております。その一方で、中国・新興国・資源国等の景気下振れによる影響や英国のEU離脱問題に伴う世界経済の下振れが懸念される等、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが展開しているインターネット関連事業においては、スマートフォン・タブレット端末の普及に伴い、インターネット利用者数の増加やEC（電子商取引）市場の拡大等を背景として、引き続き成長を続けております。さらに、コンテンツサービスの多様化により市場規模は拡大しており、スマートフォン・タブレット等のモバイルコンテンツ市場においても継続的な成長を続けております。一方で、魅力的なコンテンツやアプリケーションを提供するため、サービス内容は複雑化・高度化する傾向にあるなど、開発費用や人件費等のコストが増加するだけでなく、企業間におけるユーザー獲得競争が一層激化しております。

このような状況の下、当社グループは、ITサービス事業をコア事業として、安定した収益基盤を強化しました。また、コンテンツ事業においても、スマートフォン・タブレット等のモバイルコンテンツの開発事業及び配信・運営事業を強化するとともに、子会社各社の強みを生かし、これまでのマス・マーケットからターゲット層を絞ったニッチ・マーケットでの基盤を作り、多様化する顧客ニーズに合ったサービスの提供に努めてまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高24,002百万円（前年同期比147.4%増加）、営業利益1,785百万円（前年同期比25.2%減少）、経常利益1,624百万円（前年同期比33.4%減少）、親会社株主に帰属する四半期純損失121百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益1,502百万円）となりました。

また、EBITDA（営業利益＋減価償却費＋のれん償却額）は2,750百万円、のれん償却前四半期純利益（親会社株主に帰属する四半期純利益＋のれん償却額）は417百万円となりました。

なお、当社グループでは、M&Aを活用した事業基盤の強化や拡大を積極的に目指していくなかで、各国の会計基準の差異にとらわれることなく企業比較が可能なEBITDAを経営指標として採用しております。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(ITサービス事業)

ITサービス事業につきましては、電子出版に特化したアフィリエイト事業を行う株式会社ファーストペンギン及びデータサービス事業を行う株式会社エアネットが安定した収益を獲得しております。

以上の結果、売上高は4,752百万円（前年同期比36.8%増加）、営業利益は411百万円（前年同期比2.6%増加）となりました。

(コンテンツ事業)

コンテンツ事業につきましては、スマートフォン・タブレット向けゲームの開発、配信及び運営、ドラマCDやボイスCD、キャラクターグッズの販売等を行っております。スマートフォン向けゲーム「A3!（エースリー）」の収益が好調に推移し、また株式会社サイバードが連結子会社となったことにより売上高は増加しておりますが、広告宣伝費等の支出により営業利益は減少しております。

以上の結果、売上高は10,086百万円（前年同期比59.9%増加）、営業利益は865百万円（前年同期比57.8%減少）となりました。

(アセットマネジメント事業)

アセットマネジメント事業につきましては、不動産の賃貸及び売買並びに国内外の企業等への投資等を行っております。

以上の結果、売上高は8,407百万円、営業利益は535百万円となりました。

(その他)

その他事業につきましては、清掃、化成品事業等を行っております。

以上の結果、売上高は800百万円、営業損失は5百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は30,497百万円で、前連結会計年度末に比べ2,727百万円増加いたしました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ2,060百万円減少し、19,182百万円となりました。固定資産は、前連結会計年度末に比べ4,787百万円増加し、11,314百万円となりました。流動負債は、前連結会計年度末に比べ1,300百万円増加し、10,016百万円となりました。固定負債は、前連結会計年度末に比べ498百万円増加し、6,445百万円となりました。

純資産につきましては、新株予約権の権利行使による新株発行に伴い、前連結会計年度末に比べ927百万円増加し、14,035百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、本日(平成30年11月14日)公表いたしました「平成30年12月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,086	8,059
受取手形及び売掛金	3,175	3,620
商品	7,682	6,047
仕掛品	21	70
短期貸付金	61	65
繰延税金資産	705	740
その他	545	616
貸倒引当金	△34	△38
流動資産合計	21,243	19,182
固定資産		
有形固定資産	444	599
無形固定資産		
のれん	3,400	5,900
ソフトウェア	706	1,140
その他	137	229
無形固定資産合計	4,244	7,271
投資その他の資産		
投資有価証券	1,419	2,311
関係会社株式	60	57
長期貸付金	45	266
繰延税金資産	48	86
その他	366	838
貸倒引当金	△102	△116
投資その他の資産合計	1,836	3,443
固定資産合計	6,526	11,314
資産合計	27,770	30,497

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	735	1,396
短期借入金	1,392	2,339
1年内返済予定の長期借入金	997	1,500
未払法人税等	1,253	65
賞与引当金	49	134
預り金	3,071	3,095
その他	1,216	1,485
流動負債合計	8,715	10,016
固定負債		
社債	219	219
長期借入金	5,384	5,776
繰延税金負債	139	110
役員退職慰労引当金	38	48
退職給付に係る負債	23	24
資産除去債務	45	137
その他	96	128
固定負債合計	5,946	6,445
負債合計	14,661	16,461
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,503	2,244
資本剰余金	11,375	11,928
利益剰余金	300	178
自己株式	△557	△780
株主資本合計	12,621	13,571
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	140	108
為替換算調整勘定	55	50
その他の包括利益累計額合計	195	158
新株予約権	167	89
非支配株主持分	124	215
純資産合計	13,108	14,035
負債純資産合計	27,770	30,497

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
売上高	9,702	24,002
売上原価	3,740	15,498
売上総利益	5,962	8,503
販売費及び一般管理費	3,573	6,717
営業利益	2,388	1,785
営業外収益		
受取利息	66	3
受取配当金	11	9
持分法による投資利益	0	-
未払配当金除斥益	-	21
その他	17	34
営業外収益合計	96	68
営業外費用		
支払利息	8	130
為替差損	23	24
持分法による投資損失	-	5
貸倒引当金繰入額	8	-
その他	4	69
営業外費用合計	44	230
経常利益	2,439	1,624
特別利益		
固定資産売却益	-	54
投資有価証券売却益	0	4
関係会社株式売却益	60	-
新株予約権戻入益	-	3
特別利益合計	61	62
特別損失		
固定資産除却損	0	0
関係会社株式売却損	-	39
関係会社株式評価損	4	-
減損損失	0	655
特別退職金	12	-
特別損失合計	17	695
税金等調整前四半期純利益	2,482	991
法人税、住民税及び事業税	1,066	702
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	-	454
法人税等調整額	△90	△39
法人税等合計	976	1,116
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,506	△125
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	4	△3
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	1,502	△121

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年1月1日 至平成30年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,506	△125
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	△31
為替換算調整勘定	△14	△5
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	-
その他の包括利益合計	13	△36
四半期包括利益	1,520	△162
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,515	△158
非支配株主に係る四半期包括利益	4	△3

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期連結累計期間において、新株予約権の権利行使による新株発行に伴い、資本金が741百万円、資本準備金が741百万円増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成29年1月1日 至 平成29年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	ITサービス	コンテンツ	アセットマネ ージメント	合計			
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	3,445	6,257	—	9,702	—	—	9,702
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	27	49	—	77	—	△77	—
計	3,473	6,306	—	9,780	—	△77	9,702
セグメント利益 又は損失(△)	400	2,051	△10	2,442	—	△53	2,388

(注) 1. セグメント利益又は損失の「調整額」は、セグメント間取引消去△53百万円によるものであります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの資産に関する事項

当第3四半期連結会計期間において、株式交換により株式会社グッドビジョン、株式会社サクラゲート、株式会社エイタロウソフト、株式会社ゼノバース及びXenoverse Holdings, Inc. を連結子会社といたしました。その結果、コンテンツ事業における資産の金額が1,276百万円増加しております。

また報告セグメントに帰属しない事業において、株式交換及び株式取得によりTwist株式会社、株式会社Impression、株式会社アエリア投資式号及び株式会社トータルマネージメントを連結子会社といたしました。その結果、セグメントに帰属しない事業における資産の金額が8,720百万円増加しております。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

コンテンツ事業において、当社は株式交換により株式会社グッドビジョン、株式会社サクラゲート、株式会社エイタロウソフト、株式会社ゼノバース及びXenoverse Holdings, Inc. を連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては765百万円であります。

報告セグメントに帰属しない事業において、当社は株式交換及び株式取得によりTwist株式会社、株式会社Impression、株式会社アエリア投資式号及び株式会社トータルマネージメントを連結子会社といたしました。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては918百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成30年1月1日 至 平成30年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	調整額 (注2)	四半期連結損益 計算書計上額 (注3)
	ITサービス	コンテンツ	アセットマネ ージメント	合計			
売上高							
(1) 外部顧客に 対する売上高	4,740	10,053	8,407	23,201	800	—	24,002
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	12	32	—	44	—	△44	—
計	4,752	10,086	8,407	23,246	800	△44	24,002
セグメント利益 又は損失(△)	411	865	535	1,812	△5	△21	1,785

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、清掃業、化成品事業等であります。

2. セグメント利益又は損失の「調整額」は、セグメント間取引消去△21百万円によるものであります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントの変更等に関する事項

前連結会計年度において、株式会社トータルマネージメントをはじめとした不動産事業等を報告セグメントの「アセットマネージメント事業」として追加しております。

また、第1四半期連結累計期間に新たに連結子会社となった清匠株式会社については「その他」、第2四半期連結累計期間に新たに連結子会社となった株式会社サイバード他2社につきましては「コンテンツ事業」として追加しております。

これに伴い当第3四半期連結累計期間の比較情報として開示した前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の報告セグメントにより作成されております。

3 報告セグメントごとの資産に関する事項

第2四半期連結会計期間において、株式取得により株式会社サイバードを連結子会社といたしました。その結果、コンテンツ事業における資産の金額が5,365百万円増加しております。

4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

コンテンツ事業において、当初の事業計画に対する進捗状況及び今後の業績の見通しを考慮した結果、当第3四半期連結累計期間においてのれんを減損損失として計上しております。計上額は、655百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

コンテンツ事業において、連結子会社である株式会社エイタロウソフトを連結の範囲から除外したことに伴い、のれんが減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当第3四半期連結累計期間において206百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。